



## スペイン優良食品がシウダ・レアル市に集合 エスパーニャ・オリヒナル

Productos excelentes de España reunidos en Ciudad Real

アルコール飲料以外の品質認定食品だけを集めた国内初の食品市「エスパーニャ・オリヒナル」が2006年9月25日～28日までシウダ・レアル市で催された。参加企業数429社。海外から買い付けに来た業者が約315社。ビジネス・コンタクトは4万件にも上ったという規模の大きな食品市となった。

カスティージャ・ラ・マンチャ州に属するシウダ・レアル県はワイン用ブドウの作付面積世界一を誇る。そのワインとの密接な関係が熟成されて、2001年からこの土地で国内最大のワイン市「FENAVIN」が隔年で開催されているが、今回の「エスパーニャ・オリヒナル」はこの経験とスタッフを総動員しての4日間。こうした大規模なフェアにつきものの初日の混雑やカオス状態というのがまるでなかったのは、主催者側の正確な計算があつてのことだろう。会場のブース割りや商談をスムーズにするシステムが効率よく回っていたのも、この食品市が一般向けでなく「業者中心」にのびた企画が功を奏した結果である。

また、会場のコンパニオンの数はかなりのもので、気配りが非常に行き届いていた。オレンジの制服の彼女たちが見つからなければ、やはり会場のあちこちを歩いている黒いTシャツの若者たちが的確なインフォメーションをくれる。地域社会が団結してこの食品市を作り上げている雰囲気は非常に好印象だ。

また、広い会場を足を棒にせず試食して回れるスペース、Sabor



originalも参加者には好評だったようだ。午前中だけの入場制限があつたのが残念だが、午後からの一般客入場を意識してのことだろう。午前中は商談専門のビジネスマンらがゆったりと商品を見たり試したりする時間的・空間的余裕があり、インターネットなどのサービスも充実。主催者側が最初に狙つたとおり「ビジネスの場」としての食品市としてはまずまずの成功を収めた様子。

欲を言えば、日本を含め海外からかなりの数のバイヤーが訪れたにも関わらず、英語できちんと商談ができる出展者が非常に限られていたこと。逆に、英語の通じる企業にバイヤーが集中しているという姿もまま見かけられた。各日設けられた有名シェフやグルメ評論家が参加してのレクチャーや講演もやはり言葉の壁によって諦めた海外からの参加者も多かったようだ。言語はスペイン製品を海外へアピールするにあたって、最も初歩的な避けては通れない問題。次回からの改善を期待したい。

インフォメーション: [www.espanaoriginal.com](http://www.espanaoriginal.com)



左から、España Original 副総裁、総裁、ディレクター